

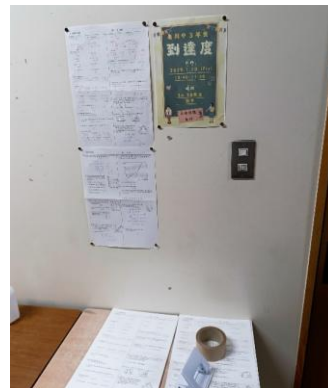
リーディングDXスクール事業【実践事例】

海南市立亀川中学校

【取組内容】「不易流行に根ざした個別最適学習と協働学習の充実」①

□ICTの活用

- ・ **個別最適な学び**: タブレットや従来からあるワークシートを活用し、生徒一人ひとりの学習進度に応じた教材を提供した。例えば、数学の授業では、生徒が自分のペースで問題を解くことができるように、デジタル教材と個々に応じたプリントを用意し、選択できるようにした。
- ・ **協働的な学び**: オンラインツールや学習支援ソフトだけでなく黒板を使って、グループでの共同作業やディスカッションを行った。例えば、社会の授業では、グループごとにテーマを決めて調査し、オンラインプレゼンテーションを行った。



□教師の役割

- ・ **個別最適な学び**: 生徒一人ひとりの学習進度や理解度を把握し、それに応じた指導を行うことに重点をおいた。例えば、理解が遅れている生徒には個別に補習を行い、進度が早い生徒には追加の課題を提供した。
- ・ **協働的な学び**: 生徒が自律的に学ぶ力を育むための支援を行った。これには、生徒が自分で目標を設定し、それに向かって計画を立てる手助けをすることが含まれる。例えば、単元の初めに生徒と一緒に目標を設定し、その進捗を定期的に確認することで、自律的な学びを促進することである。

□リーディングDXスクールの指定校として

- ・ **個別最適な学び**: デジタルツールを活用して、生徒一人ひとりの学習ニーズに応じた指導を行った。
- ・ **協働的な学び**: デジタルツールを使った共同作業やプロジェクトベースの学習を推進した。例えば、生成AIを活用したプロジェクトで、生徒たちが共同でアイデアを出し合い、問題解決に取り組む活動を行った。



リーディングDXスクール事業【実践事例】

海南市立亀川中学校

【取組内容】 「不易流行に根ざした個別最適学習と協働学習の充実」 ②

□ノート学習とタブレット活用のハイブリッド

・ **個別最適な学び**: タブレットとの併用で、生徒が自分のペースでノートに学習内容を書き込み、理解を深めた。例えば、授業中に教師が説明した内容を自分なりにまとめたり、問題を解いたりした。そのため、タブレットとワークシート・ノートを自由に選択できる学習環境を用意した。

・ **協働的な学び**: ノートやタブレットに書いた内容を基に、学級全体でディスカッションを行った。生徒同士で意見交換をしながら、各自の理解を深め合った。



□生徒会の取組と学校討論

・ **個別最適な学び**: 生徒総会の取組では、生徒一人ひとりの意見や関心を集め、それを基に議題を設定させた。例えば、アンケートを実施して生徒の関心事を把握し、その結果をもとに総会で議論するテーマを決定した。

・ **協働的な学び**: タブレットを使って、生徒が自分の意見をリアルタイムで共有できる環境を整えた。これにより、全員が平等に意見を発表でき、今までより、議論が活発になったと思われる。



□手書きのポートフォリオ作成と発表

・ **個別最適な学び**: 生徒が自分の学習成果を手書きでポートフォリオにまとめた。例えば、学期ごとの目標や達成した内容を記録した。「考えて書く」ということを重要視したからである。

・ **協働的な学び**: ポートフォリオをクラスで発表し、他の生徒からのフィードバックを受けた。これにより、自己評価と他者評価を通じて学びを深めた。

